
ミッション

sakura

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ミッシヨン

【Nコード】
N7094Y

【作者名】
s a k u r a

【あらすじ】
オジプラス第二弾です。年齢容姿は好きにご想像ください。

じつと瞳を覗き込むように見つめてくる彼女に、大男はそつと両目を細めて笑った。

「おじさん？」

首を傾げて大きな瞳で彼を見つめている。

無邪気な瞳。

それは、恋愛感情などではない。自分にそう言い聞かせる男は彼女の頭をぼんぽんと軽くはたいた。

頼りない瞳をした、なんの力もない少女だというのに。

彼女を守るのは彼しかない。

彼が彼女を守るしかない。

「なにも、心配いらない」

「……うん！」

彼の腕の中の少女は、なんの不安もなく、彼だけを信じている。彼だけを見つめている。

男でもなく、父親としてでもなく。

少女は彼だけを見つめる。

「おじさんは、いつもわたしのそばにいてくれるけど、つまらなくない？」

真面目な瞳で見つめ返す彼女は、ひらりと裾の長いワンピースを揺らす。

彫りの深い、黒髪の少女はけれども、なにかに不安を感じるようで、小さな手でそつと男の服の裾を掴み締めている。

彼女は何度となく命を狙われてきた。少女の記憶を狙って、武装組織に狙われているなど、普通の人間ならば想像も及ばない。

彼の任務は、そんな少女を守ることだった。

だから、男は彼女を守る。

「怖い思いばかりさせて、すまん」

「大丈夫よ、おじさんがいるから、わたしは怖くないもの」

途切れがちになる少女の言葉が震えていた。

怖くないはずがない。

必死の思いで男に守られて逃げ続けた。その体験が彼女に恐怖を与えている。

自分の命の危機にさらされることになった小さな子供。彼女を守り続けて、もうどれくらいになるだろう。

両親を殺された彼女を守る任務に就くことになった彼は、ありとあらゆる手段をつかって彼女を守り続けてきた。

「大丈夫だ」

強く少女の体を抱きしめてやると、一方の少女はきゅっと彼の服にしがみついて目を閉じる。

信じられるのは彼だけしかないと言っても言うかのように。

事実、彼女に好意的な装いで近づき、そうして危害を及ぼした。

何度となく、裏切りのような行為を彼女は体験しているのだ。

「俺を、信じる」

「うん……」

小さく震えている彼女の頭を抱きしめて彼は睫毛を伏せる。

世界は、どれだけこんなにも頼りない少女を傷つければ気が済むのだろう。

そう考えた。

（後書き）

読んでいただいております。
（＊・ω・）＊――（

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7094y/>

ミッション

2011年11月21日11時41分発行